

第3章

中学生は「完全学校週5日制」を どう考えているか

森永徳一

1 「完全学校週5日制」についての気持ち

図3-1は、「土曜日が休みになったことをどう思っているか」という質問の回答である。「とてもそう思う」と「わりとそう思う」を合わせた数値で見ると、「うれしい」が75.5%で、今までとちがう日々への期待感をうかがうことができる。「楽しい」も64.7%あり、多くの生徒は土曜日が休みになったことを楽しいと思っている。「のんびりする」は62.6%で、6割を超える生徒たちは土曜日が休みになったことを歓迎している。一方、「たいくつだ」と思っている生徒が20%近くいることを忘れてはならないが、58.6%の生徒はたいくつとは思っておらず、むしろ、目的を持って土曜日の休みを使いたいと考えているようだ。

全体を通して、今までの第2・第4土曜日の休みより、「学校5日制」が肯定的にとらえられていることが推測できる。中学生全体として、土曜日の休みを「のんびり」でき、「うれしい」「楽しい」と考えている。今後は、月曜日から金曜日までの学校生活の充実をどのように図っていくかが課題となる。その一方で、土曜日の過ごし方や生活のリズムをこわさない家庭や地域での生活をどう送っていくかが、生徒一人ひとりの大きな課題

であることが、この調査からみえてくる。

表3-1は、「土曜日が休みになったことで、時間の使い方がどのように変化したか」をたずねたものである。全体では、約50%が「変わらない」と答えている「自分で勉強する時間」だが、学年別で見ると、3年生は「とても増えた」が22.8%、「わりと増えた」が41.5%で、合わせると64.3%に達し、受験を控えているためが増加傾向にあることが読みとれる。「塾に行く時間」は、全体の約75%は「変わらない」と答えているが、勉強時間と同様に、3年生になると増加傾向にあることがわかる。「部活動をする時間」をみると、「とても増えた」が1年生34.5%、2年生30.1%で、「わりと増えた」を合わせると、それぞれ56.2%、58.6%の生徒が増えたと考えている。一方で、3年生は24.8%の生徒が「とても減った」と感じている。このように3年生にとって、「塾に行く時間」が増加し、「部活動をする時間」が減少することは、おおよそ予想できる。今の学校の現実をそのままあらわしていると考えられる。

「自分の趣味の時間をやる時間」は、50%以上の生徒が増えたと考えているが、趣味の内容や種類に関しては、調査しなくてはわからない面もある。音楽を聴くことや習い事に行くことではないかと推測できるが……。家庭での生活の変化が今

図3-1 土曜日が休みになったことをどう思うか

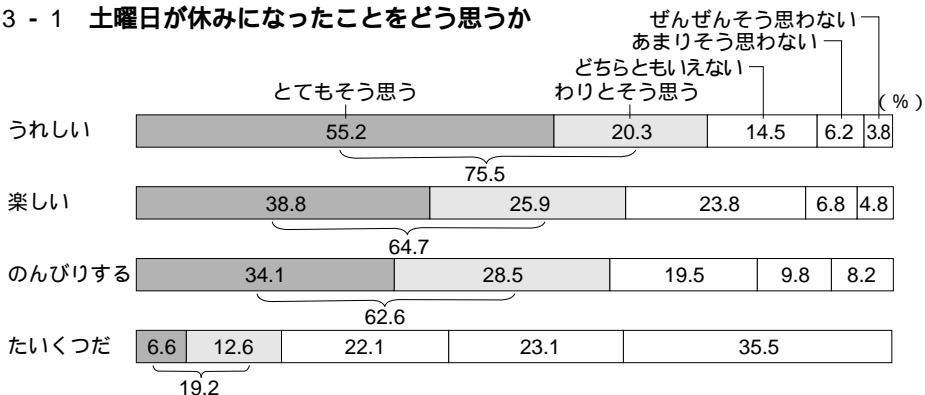


表3 - 1 土曜日が休みになったことによる時間の使い方の変化 × 性・学年

		(%)					
		全体	男子	女子	1年	2年	3年
自分で勉強する時間	とても増えた	12.1	13.1	11.0	8.1	5.4	22.8
	わりと増えた	31.1	29.1	33.1	26.2	25.6	41.5
	変わらない	50.6	50.9	50.2	57.4	62.5	31.7
	わりと減った	2.9	2.7	3.1	4.7	2.3	1.6
	とても減った	3.3	4.1	2.5	3.6	4.2	2.3
塾に行く時間	とても増えた	9.7	10.7	8.6	4.2	5.8	19.1
	わりと増えた	10.5	10.0	11.1	6.7	7.2	17.6
	変わらない	74.8	73.0	76.7	82.6	80.9	60.9
	わりと減った	0.7	0.7	0.7	1.0	0.8	0.4
	とても減った	4.3	5.5	2.9	5.5	5.3	2.1
部活動をする時間	とても増えた	23.8	22.5	25.3	34.5	30.1	4.6
	わりと増えた	19.1	18.9	19.3	21.7	28.5	5.8
	変わらない	45.6	44.8	46.4	40.3	35.1	63.1
	わりと減った	1.7	1.9	1.4	0.9	2.6	1.6
	とても減った	9.8	11.9	7.5	2.6	3.7	24.8
自分の趣味のことをする時間	とても増えた	20.1	19.5	20.7	22.8	18.4	19.0
	わりと増えた	35.0	33.8	36.3	35.3	33.0	36.7
	変わらない	37.3	39.4	35.1	33.7	42.3	36.2
	わりと減った	3.7	2.8	4.7	4.6	3.6	2.7
	とても減った	3.9	4.6	3.2	3.6	2.7	5.4
親と過ごす時間	とても増えた	12.6	10.9	14.4	15.9	9.0	12.5
	わりと増えた	32.5	32.4	32.5	33.6	31.3	32.4
	変わらない	45.9	47.3	44.5	38.8	51.0	48.4
	わりと減った	5.3	5.1	5.6	7.6	5.2	3.0
	とても減った	3.7	4.3	3.0	4.1	3.4	3.6
友達と過ごす時間	とても増えた	24.6	23.6	25.6	29.9	24.1	19.5
	わりと増えた	31.7	32.6	30.7	27.7	38.8	28.8
	変わらない	31.2	30.3	32.2	27.2	28.4	38.2
	わりと減った	6.3	6.4	6.2	7.7	4.7	6.5
	とても減った	6.2	7.1	5.2	7.5	4.0	7.0
1人でボーっとする時間	とても増えた	9.3	9.1	9.5	8.0	8.3	11.5
	わりと増えた	20.8	17.7	24.0	16.8	17.4	28.5
	変わらない	58.4	59.1	57.5	61.0	62.6	51.4
	わりと減った	4.8	4.9	4.7	5.8	5.2	3.4
	とても減った	6.7	9.1	4.2	8.4	6.5	5.2
いろいろなことを考える時間	とても増えた	14.6	14.3	14.9	11.9	12.3	19.8
	わりと増えた	30.9	26.6	35.5	25.2	29.0	38.8
	変わらない	48.5	52.8	44.0	54.8	52.1	38.3
	わりと減った	2.9	2.2	3.8	3.6	3.6	1.6
	とても減った	3.0	4.1	1.8	4.6	2.9	1.4
睡眠時間	とても増えた	21.6	21.5	21.8	18.9	18.3	27.8
	わりと増えた	23.0	22.5	23.5	22.6	21.0	25.3
	変わらない	35.2	33.8	36.7	35.9	41.9	27.8
	わりと減った	13.9	14.3	13.4	15.5	12.9	13.0
	とても減った	6.3	7.8	4.7	7.1	5.8	6.1

後あらわれてくると考えられる。

次に、「親と過ごす時間」や「友だちと過ごす時間」についてみてみよう。全体では「親と過ごす時間」は45.1%の生徒が「とても+わりと増えた」と答えている。土曜日が休みになったことで、その機会が増えたことを意味する。しかし、45.9%の生徒は「変わらない」と答えており、土曜日の休日が増えたからといって、親と過ごす時間が増加するまでには、時間がかかりそうである。中学生時代は親離れの時期でもあり、中学生の“心のゆとり”がなくては増えないと考える。「友だちと過ごす時間」は、全体では約30%が「変わらない」と答えている。一方、56.3%は「とても+わりと増えた」と感じている。今まで以上に友だちと外出したりする機会が増えたことによっても考えられる。

「1人でポットとする時間」となると、58.4%の生徒は「変わらない」と答えているが、女子の割合と上級学年に行くにしたがって増加傾向にあることがわかる。「いろいろなことを考える時間」と同じ傾向にあり、中学2、3年生の心の変化がこの時期から多くあらわれることから推測できる。

最後に、「睡眠時間」の割合をみると、全体の44.6%が「とても+わりと増えた」と答えており、「変わらない」35.2%より多い。生徒の睡眠時間は、土曜日が休みになることによって一般的には長くなってはいるが、土曜日に何らかの用事があり、いつまでも寝ていられない状況にあることも推測できる。睡眠時間が増えたと感じているが、「夜型生活・朝寝坊型生活」が浸透すると、健全な生活が阻害されるおそれも生まれてくる。

2. 土曜日が休みになって感じること

表3-2は、「土曜日が休みになってから、学校生活がどう変わったと感じているか」をたずねたものである。学校の実態を考える上で参考になるものと考えている。「授業の進み方が速くなった」と感じている生徒は「とても+わりと増えた」と「わりと増えた」を合わせて42.4%。各学年、男女を問わず「速くなった」と感じている。「勉強が楽になった」は、44.4%が「どちらともいえない」

と答えており、2、3年生では、約50%の生徒が楽になったと思わないと答えている。学習の進捗と共に、月曜日から金曜日までの限られた時間の中に、学習内容が詰め込まれている様子が推測できる。「行事の準備のための時間が少なくなった」も、45.5%の生徒が「とても+わりと増えた」と答えている。部活動の時間の減少と共に、行事に使われる時間の減少が目に見えてくる。学習時間の確保が大変な様子も同時に推測できる。

「友だちと遊びにくくなった」は、「あまりそう思わない」と「ぜんぜんそう思わない」を合わせて45.8%、「どちらともいえない」37.1%であり、「友だちと遊びにくくなった」とは考えていない。生徒は、学校生活の内外を通して、適当に遊ぶ時間はあるということが推測できる。「宿寝が増えた」は、「どちらともいえない」が47.0%、「あまり+ぜんぜんそう思わない」をみると、31.3%の生徒はそう思っていない。3年生で「とても+わりと増えた」割合が少し増える傾向にある。

「先生と話す時間が減った」は、全体の57.3%が「どちらともいえない」と答え、34.3%が「あまり+ぜんぜんそう思わない」と答えている。教師側は、忙しくなって少ないと感じているかもしれないが、生徒たちはもともと教師とはふだんからあまり会話していないと考えられる。「先生が疲れているようだ」は、「どちらともいえない」が46.9%で、「あまり+ぜんぜんそう思わない」31.5%を合わせると、生徒は先生が疲れているとは感じていないようだ。教師側は、忙しく、時間に追われ、生徒が思っている以上に疲れていると考えられる。

「月曜日に学校に行くのがつらい」と「月曜日は、何となくだるい」は、どちらもおおよそ同じ結果である。全体でみると、50.7%が「月曜日に学校に行くのがつらい」と思っており、「月曜日は、何となくだるい」と思っている生徒も56.4%いる。月曜日は、生徒たちにとって「学校に行きたくなくて、何となくだるい」曜日であることは推測できる。心身共に不調のスタートが月曜日となっている。この現実を、学校現場はしっかりと認識して、学校の授業内容の工夫・改善に努めることが求められる。

表3 - 2 土曜日が休みになったことによる学校生活の変化 × 性・学年

		(%)					
		全体	男子	女子	1年	2年	3年
授業の進み方が速くなった	とてもそう思う	16.8	17.6	15.9	18.4	17.2	14.6
	わりとそう思う	25.6	24.0	27.3	24.0	27.4	25.7
	どちらともいえない	37.1	35.8	38.5	40.7	34.5	35.9
	あまりそう思わない	13.3	13.9	12.7	11.1	14.1	15.0
	ぜんぜんそう思わない	7.1	8.6	5.5	5.9	6.8	8.8
勉強が楽になった	とてもそう思う	3.9	5.1	2.6	4.7	3.9	3.0
	わりとそう思う	9.0	10.0	7.9	10.9	7.9	8.0
	どちらともいえない	44.4	44.7	44.1	50.0	41.8	41.1
	あまりそう思わない	23.6	21.1	26.3	17.6	26.2	27.5
	ぜんぜんそう思わない	19.0	19.1	19.0	16.8	20.1	20.4
行事の準備のための時間が少なくなった	とてもそう思う	19.7	17.2	22.4	11.5	22.0	26.2
	わりとそう思う	25.8	25.0	26.6	21.8	28.5	27.4
	どちらともいえない	41.1	43.5	38.6	53.0	38.2	31.4
	あまりそう思わない	7.9	7.8	8.0	7.9	6.1	9.7
	ぜんぜんそう思わない	5.5	6.5	4.5	5.9	5.2	5.4
友だちと遊びにくくなった	とてもそう思う	7.8	8.1	7.5	13.0	4.8	5.2
	わりとそう思う	9.3	9.3	9.3	10.9	7.2	9.7
	どちらともいえない	37.1	38.3	35.8	33.3	37.3	40.9
	あまりそう思わない	22.2	20.1	24.5	19.5	24.7	22.6
	ぜんぜんそう思わない	23.6	24.2	23.0	23.2	26.0	21.7
宿題が増えた	とてもそう思う	7.5	8.8	6.2	8.9	6.5	7.1
	わりとそう思う	14.2	14.3	14.1	15.2	9.5	17.8
	どちらともいえない	47.0	48.7	45.1	47.4	49.9	43.6
	あまりそう思わない	19.4	15.6	23.4	18.2	20.8	19.2
	ぜんぜんそう思わない	11.9	12.7	11.1	10.3	13.3	12.3
先生と話す時間が減った	とてもそう思う	2.4	3.1	1.7	2.2	1.8	3.2
	わりとそう思う	6.0	5.7	6.2	6.9	5.2	5.7
	どちらともいえない	57.3	60.1	54.4	60.0	53.6	58.3
	あまりそう思わない	18.8	16.0	21.8	16.6	20.8	19.3
	ぜんぜんそう思わない	15.5	15.2	15.8	14.4	18.6	13.5
先生が疲れているようだ	とてもそう思う	9.3	10.7	7.8	9.4	7.6	10.9
	わりとそう思う	12.3	9.9	14.8	14.3	11.2	11.3
	どちらともいえない	46.9	48.3	45.5	46.6	47.7	46.4
	あまりそう思わない	13.2	11.9	14.6	13.3	12.7	13.8
	ぜんぜんそう思わない	18.3	19.3	17.2	16.5	20.8	17.7
月曜日に学校に行くのがつらい	とてもそう思う	25.4	28.8	21.9	24.0	27.2	25.1
	わりとそう思う	25.3	23.8	26.9	26.9	24.6	24.4
	どちらともいえない	20.1	21.3	18.9	19.5	19.0	21.9
	あまりそう思わない	15.7	12.1	19.5	15.4	17.2	14.6
	ぜんぜんそう思わない	13.4	14.1	12.7	14.2	12.0	13.9
月曜日は、何となくだるい	とてもそう思う	27.5	29.8	25.1	23.8	30.6	28.3
	わりとそう思う	28.9	27.5	30.5	31.0	28.4	27.3
	どちらともいえない	18.8	19.5	18.1	19.6	17.3	19.6
	あまりそう思わない	12.8	10.8	14.9	14.0	11.7	12.7
	ぜんぜんそう思わない	11.9	12.4	11.4	11.6	12.1	12.1

表3 - 3は、「土・日曜日が休みになったことで、どのように感じているか」の回答である。「とてもそう思う」+「わりとそう思う」を合わせると、「自分の進路を考える時間が作れた」は、2年生では27.1%だが、3年生では60.1%と急増している。3年生は、学校調べや学校訪問・職場訪問などの自分の将来のことを考える時間が確保できていることを示している。「いろいろな人と知り合う機会が増えた」は、3年生は36.3%（「とても+わりとそう思う」）の生徒が増えたと感じている。このことは、進路の学校訪問や職場訪問の体験の機会が増えたことを意味すると考えられる。

次に「将来のための準備・勉強ができるようになった」は、39.0%の生徒が「とても+わりとそう思う」と答えている。特に、3年生は60.7%が

土日が将来のために役立っていると感じている。このことは、3年生にとって進学や進路学習の時間などの機会が増えていると考えられる。

最も気がかりな「一層、できる子とできない子の差が広がる気がする」は、57.1%の生徒が「とても+わりとそう思う」と答えている。学年別にみると、3年生は60.1%の生徒が「とても+わりとそう思う」と答えている。進学塾での実力養成組の増加を気にしているのが推測できる。

次に「学校がないと、何となく不安だ」をみてもみると、77.4%（「あまり+ぜんぜんそう思わない」）の生徒が不安を感じていない。土日の休みを不安でなく肯定的に考えている。休みの利用の仕方次第では充実したものになると考えられる。

最後に、「だらだらした時間を過ごしてしまい

表3 - 3 土・日曜日が休みになって感じること × 学年

		(%)			
		全体	1年	2年	3年
自分の進路を考える時間が作れた	とてもそう思う	8.6	3.9	6.1	16.2
	わりとそう思う	27.0	16.9	21.0	43.9
	あまりそう思わない	45.4	53.1	51.1	31.7
	ぜんぜんそう思わない	18.9	26.1	21.9	8.2
いろいろな人と知り合う機会が増えた	とてもそう思う	12.3	15.9	9.1	11.6
	わりとそう思う	27.5	30.0	27.6	24.7
	あまりそう思わない	44.7	39.5	46.2	48.6
	ぜんぜんそう思わない	15.6	14.7	17.0	15.1
将来のための準備・勉強ができるようになった	とてもそう思う	8.6	4.2	5.4	16.3
	わりとそう思う	30.4	23.1	24.1	44.4
	あまりそう思わない	45.9	52.2	53.1	32.0
	ぜんぜんそう思わない	15.2	20.5	17.4	7.3
一層、できる子とできない子の差が広がる気がする	とてもそう思う	24.1	23.4	21.8	27.1
	わりとそう思う	33.0	31.4	34.9	33.0
	あまりそう思わない	33.6	35.6	33.5	31.7
	ぜんぜんそう思わない	9.3	9.6	9.9	8.2
学校がないと、何となく不安だ	とてもそう思う	6.6	6.4	4.7	8.6
	わりとそう思う	16.0	15.1	15.8	17.1
	あまりそう思わない	44.2	43.7	42.7	46.3
	ぜんぜんそう思わない	33.2	34.9	36.8	27.9
だらだらした時間を過ごしてしまいそうだ	とてもそう思う	22.3	19.1	18.1	29.8
	わりとそう思う	34.7	33.6	35.3	35.2
	あまりそう思わない	28.1	29.7	30.5	23.9
	ぜんぜんそう思わない	15.0	17.6	16.1	11.1

そうだ」は、57.0%の生徒が「とても+わりとそう思う」と答えている。土日の時間の過ごし方が十分定着していないと推測できる。余暇の活用方法やスポーツや趣味の時間の推進をどこかで奨励していかなくては、「塾」や「部活動」の時間になるように思えてくる。

図3-2は、「土曜日も、学校があった方がいいと思うか」をたずねたものである。「絶対あった方がいい」+「できればあった方がいい」の合計が24.9%、「できればない方がいい」+「絶対ない方がいい」の合計が75.2%と、後者の割合の方が高い。生徒たちは「学校5日制」に賛成していると考えられる。

図3-3は、「なぜ、土曜日が完全に休みにになったのだと思うか」の回答である。「とてもそう」+「わりとそう」の割合の高い方からみると、「家の人と過ごす時間を増やすため」72.0%、「学校ではできない『学び』をさせるため」68.8%、「生徒をゆっくり休ませるため」55.4%、「好奇心を発達させるため」49.9%、「先生をゆっくり休ませるため」44.5%と続く。生徒たちは、家の人と過ごす時間や学校外の「学び」の時間として土曜日を考えており、身体を鍛えたり友だちと遊ぶ時間を増やしたり好奇心を発達させたりするための時間とは考えていない。「学校5日制」の趣旨は漠然としながらも考えている。

3.まとめ

学校現場から生徒や保護者、教師の実際の様子をふまえ、以下所感をまとめてみた。

- ・休みが増えたことを喜んでいる生徒は多いが、その休みが有効に利用されていないことがわかる。また、休みが増えた分、部活動や塾に行く傾向がみられる。

- ・学校でできない体験学習や新しい「学び」の機会に挑戦している生徒の姿もみられる。

- ・保護者にとっては、休みになったことよりも「休みを有効に利用してほしい」という意見や「学力の低下」「ゆとりがなくなった」というマイナスのイメージがあるように思える。

- ・教師の意見は、平日が忙しくなった。生徒と触れ合う時間が今まで以上に難しくなった。土日で生活のリズムをこわす生徒の存在、生徒の月曜日の登校への心配など、生徒の実態から様々な課題が生まれてきていることも事実のようだ。

「学校5日制」の実施は、生徒一人ひとりに「自己教育力」や「人と人のかかわり」を育成することがその「ねらい」とされているが、学校だけでなく、家庭・地域それぞれの教育の役割を広い視野の中で考えることにより、より素晴らしい制度として社会に定着していくと思われる。

図3-2 土曜日も、学校があった方がいいと思うか

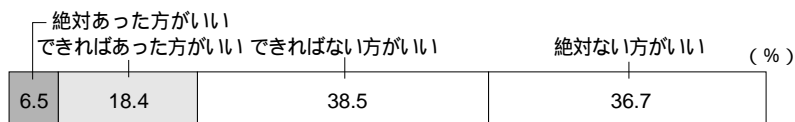


図3-3 なぜ、土曜日が完全に休みにになったのだと思うか

